「人は話し方が９割」

著者：永松　茂久
出版：すばる舎
発行：2019年９月14日



本書は、通勤の電車内の吊り広告や新聞の広告などで良く目にされた方も多いのではなかろうか。本屋でも入口近くに平積みされていたり、オリエンタルラジオの中田敦彦氏が推薦しているほか、日本出版販売株式会社の調査による2020年と2021年前期のビジネス書の売り上げが１位である話題の本である。あまりに世の中にあふれており、また評価も高いことから、果たしてどんな内容なのかと思い、今回の選書とした。

本書の著者である永松茂久氏は、大学を経て出版社で勤務したのち、大分県中津市で３坪のたこ焼き屋をオープンし、日商平均25万円を売り上げる店へと発展させた。その後、口コミだけで県外からも集客するような飲食店を同市で立ち上げ、福岡県福岡市にも出店し、現在は５店舗を経営する。このときの自身の体験から、「一流の人材を集めるのではなく、いまいる人間を一流にする」というコンセプトの人材育成法を提唱し、数多くのセミナーや講演を開き、また多数の著書を執筆している。現在は、この他にも、次世代の人材育成、出版コンサルティング、イベント主催、映像編集、経営コンサルティングなど数々の事業を展開する実業家として活躍されている。

本書のサブタイトルは「１分で人を動かし、100％好かれる話し方のコツ」となっているが、本書はコツや会話のテクニックというよりは、発想の仕方や考え方といった、話すという行動の根底の部分をどのように変えていくかについて書かれている。

本書は、全４章で構成されている。第１章では、話し方をなぜ変えなければならないのか、どのように変えていくべきかといった、いわば本書のエッセンスとなる部分について書かれており、簡単な話法について紹介している。第２章と第３章では、第１章をさらに掘り下げ、好かれる話し方や嫌われない話し方のコツやテクニックについて詳しく説明している。第４章では、これまでに触れられなかった、より具体的なシチュエーションにおける話し方について、話し手へのアドバイスを送るようなかたちで、コツやテクニックを説明している。

本書で著者が主張している内容は、話し方にとどまらず、人間社会における人としての立ち居振る舞いについて書かれているといっても過言ではない。つまり、本書では、人間関係をいかにうまく構築するかについて語られており、その構築方法のひとつが話し方であるととらえている。そして、この話し方を作るうえでのコツを紹介している。なので、本書のタイトルを額面通りに受け取って、読み始めてはいけない。本書はコミュニケーションを上手く取るためのコツ、例えば、自分が主張したいことをどのように話せばよいかなどはほとんど触れられてはいない。本書を読むには、この点をしっかり認識しておくことが重要である。それさえクリアできれば、様々な気付きを与えてくれる良書であり、勘違いさせるようなこのタイトルとサブタイトルがなぜこれになったのかも理解できる。本書の帯に「人間関係はこの１冊で全部、うまくいく。」とのあおりが入っているとおり、まさに自身の人間関係にちょっとした躓きがある方にとって、大変ためになる本である。

起業教育研究会　企画委員
大阪商業大学　准教授
北室　康一